内子町地域公共交通計画

概要版

1 計画の概要

《計画策定の背景》

○人口減少や少子高齢化の進展、公共交通の利用者の減少、二種免許ドライバーの人手不足

○町民がそれぞれの地域で生き生きと暮らすためには、車の運転が出来なくても外出が可能となるよう、移動手段の確保が必要

○将来にわたり持続可能な移動手段を確保していくためには、町・町民・各種団体・事業者等、さまざまな主体が参画し、みんなで公共交通をつくっていくことが不可欠

「内子町地域公共交通計画」は、みんなが幸せに暮らすため、公共交通が果たすべき役割や、持続可能な移動手段を確保するためのさまざまな取組について、基本的な方向性を示すもの

《計画の対象区域》 ･･･ 内子町全域

《計 画 の 期 間 》 ･･･ 令和7(2025)年度から令和11(2029)年度までの5ヵ年

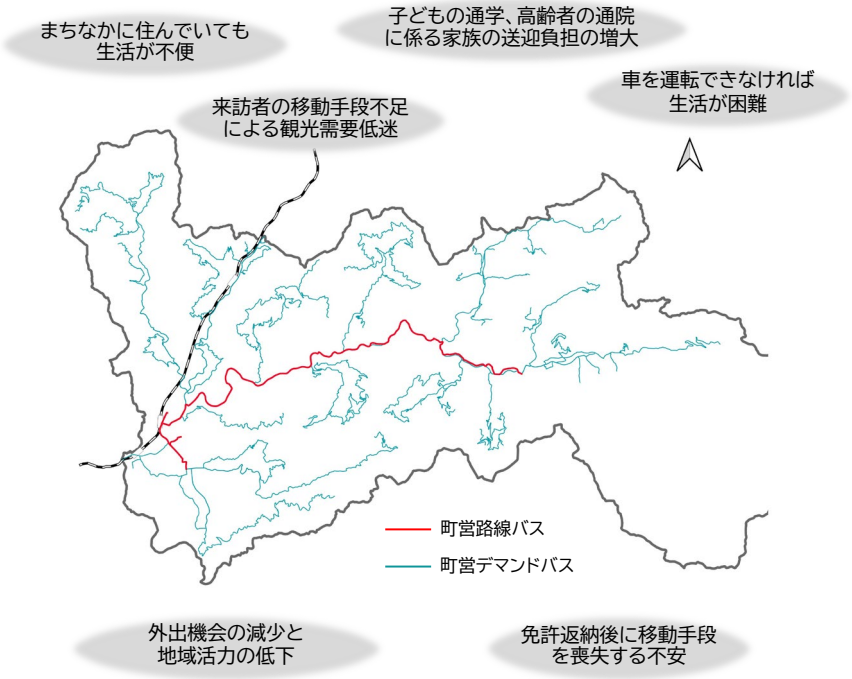
2 移動が支える町民生活の現状

○多くの町民にとって、日常生活に必要なサービスを受けるには長距離の移動が必要

○外出する人の大部分は、自家用車の運転または家族等の送迎に依存

○将来的には、高齢化や免許返納によって、これまでのような自家用車に依存した移動がしづらくなる

○移動手段がない、または不便であることが原因で、外出をあきらめる人が今後増えていく可能性が高い



このままでは･･･

町民の移動手段がなくなり、
日常生活に大きな支障が出るおそれ

3 計画の目標設定

内子町の最上位計画である「第3期内子町総合計画」より、めざすべき町民生活のあり方を抽出し、公共交通の役割と本計画の基本方針を設定

めざすべき町民生活のあり方

- ○住民がそれぞれの地域で暮らし、生き生きと活動
- ○日常生活における利便性を確保し、若者が内子町に愛着を持ち、住み続ける
- ○「エコロジータウン内子」の実現に向けて、過度な自家用車への依存を抑える
- ○通学や通院の手段を確保することにより、人々が健やかに育ち、困り事なく暮らす
- ○みんなが地域社会づくりに参画することにより、住民同士が支え合う
- ○どこに住んでいても町内で用事を済ますことが出来るまちをつくる
- ○交流人口・関係人口を増やし、経済的にも豊かに暮らす

公共交通の役割1
町内のどこに住んでいても、
人々が便利に生活できる移動手段

公共交通の役割2
子どもから免許返納をした高齢者まで、
誰もが外出機会を確保できる移動手段

公共交通の役割3
地域の人々や事業者が参画し、
地域社会でつくり・支え合っていく移動手段

公共交通の役割4
町民や町を訪れた人が、
自由に活動・交流できる移動手段

公共交通の役割5
乗合等により、自家用車よりも
環境負荷が小さく、持続可能な移動手段

基本方針
地域の移動手段として みんなでつくり・支える 持続可能な公共交通網の構築

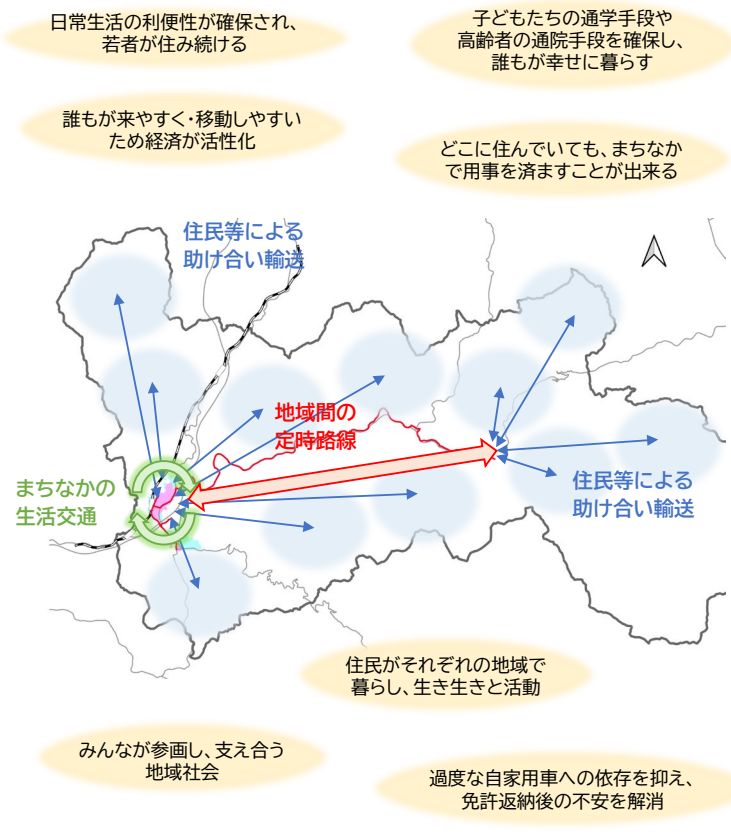
基本方針に基づき、主要課題の解決に向けた4つの目標を設定

目標1 利便性が高く、住民の日常生活に欠かせない公共交通の構築
町民の生活利便性

目標2 多様な主体と連携・協力し、効率的で持続可能な公共交通の構築
みんなで利用・運営
重点施策：住民ドライバーの協力による助け合い輸送の導入

目標3 町を訪れた人々が回遊しやすい公共交通の構築
来訪者への魅力発信

目標4 まちづくりの一翼を担い、町内のネットワークを支える公共交通の構築
住みやすいまちづくり
重点施策：まちなか生活交通の実現



めざすべき公共交通の将来イメージ

4 具体の施策・事業

目標1 利便性が高く、住民の日常生活に欠かせない公共交通の構築

方向性	施策	概要
方向性1-1 町営路線バスの利便性向上に向けた検討	①町民利用における利便性向上	割引制度の検討、本数・ダイヤの検討　等
	②町外からの訪問客向けの利便性向上	車内案内等のサービス向上　等
方向性1-2 町営デマンドバスの利便性向上に向けた検討	①新たな交通形態の検討	（方向性2-1を参照）
	②輸送力の確保と利便性向上	予約しやすさ改善の検討　等
方向性1-3 公共交通の利用環境の向上	①公共交通の連携強化と乗り場・車両等の利用環境整備	待ち合い環境の改善　等
	②町民への分かりやすい情報提供	公共交通の周知・分かりやすい掲示　等
方向性1-4 町営路線バス・町営デマンドバスの持続的運行	①運転手の育成・確保に向けた取組	二種免許取得補助の検討　等
	②貨客混載等、多様な活用に向けた取組	貨客混載の周知　等

目標2 多様な主体と連携・協力し、効率的で持続可能な公共交通の構築

方向性	施策	概要
方向性2-1 地域住民との連携・協力による助け合い輸送の実現	①小田地域における実証実験と本格導入【重点施策】	住民助け合い輸送の導入検討・実験・導入　等
	②内子・五十崎地域における導入に向けた検討【重点施策】	住民助け合い輸送の導入検討・実験・導入　等
方向性2-2 多様な輸送力の活用検討	①町が保有する輸送力の活用検討	スクールバス空き時間の活用検討　等
	②地域の多様な関係者との連携・協働による輸送力の活用検討	共創モデルの検討・実証実験　等

目標3 町を訪れた人々が回遊しやすい公共交通の構築

方向性	施策	概要
方向性3-1 観光周遊手段の確保	①JR内子駅を主要交通結節点とした二次交通の確保	観光案内所・休憩所の充実　等
	②八日市護国伝統的建造物群保存地区等の回遊手段の確保	スローモビリティの検討　等
	③町内の広範囲への移動が可能な二次交通の確保	タクシーの観光輸送強化　等
方向性3-2 来訪者にとって使いやすく、分かりやすい利用環境の整備	①多様な移動サービスとの連携及びサポート	レンタサイクル、EVカーの周知　等
	②使いやすく、分かりやすい案内表示と情報発信	多言語化・情報発信の検討　等

目標4 まちづくりの一翼を担い、町内のネットワークを支える公共交通の構築

方向性	施策	概要
方向性4-1 コンパクトで住みやすいまちづくりに向けた、まちなか交通の構築	①まちづくり計画と連携したまちなか生活交通の実現【重点施策】	まちなか線の導入検討　等
	②多様な移動手段の検討と町内ネットワークの確保	公共ライドシェア・PMVの調査研究　等
	③環境にやさしい新たなモビリティの導入に向けた調査・研究	新たなモビリティの調査・研究　等
方向性4-2 公共交通の啓発と利用のきっかけづくり	①みんなでつくり・ささえる公共交通の啓発	モビリティマネジメントの推進　等
	②商業・観光施設等との連携による公共交通利用のきっかけづくり	商業・観光との連携検討　等

5 公共交通の区分と位置付け

位置付け		役割	交通手段	主な路線	確保・維持策
広域交通・地域間交通		他市町や他都道府県と広域的に連絡し、通勤・通学や町外からの観光・ビジネス等、多様な目的での移動を担う	鉄道 JR予讃線 （内子線）	松山～内子～宇和島	乗り継ぎ利便性の向上や利用促進に事業者と連携して取り組む　等
			路線バス	松山～内子～三崎港	
			高速バス	八幡浜～内子～ 大阪・京都	交通事業者との協議の上、一定の運行水準を確保　等
地域内交通		町内全域におけるあらゆる移動を担う	タクシー	町域全体	輸送力を観光地での輸送等にあて、収益性向上を図る
		中心市街地における循環的な移動を担う	まちなか線	中心市街地内にて新規導入を図る	町民や来訪者の利便性向上による利用促進、フィーダー補助の活用
	幹線	主要拠点間を結び、町内の比較的広域な移動を担う	町営路線バス	町役場本庁舎～内子分庁舎～小田支所	サービス内容の見直しや利用促進、フィーダー補助の活用　等
	支線	町内の主要拠点と、各地域拠点または住民の自宅等を結び、地域内の移動を担う	町営デマンドバス	町役場本庁舎、内子分庁舎、小田支所を拠点に全19路線	サービス内容の見直しや利用促進、フィーダー補助の活用　等
			住民による助け合い輸送	町全体への展開を見据え、新規導入を図る	町営デマンドバスから転換を図り、導入可能性が高い地区から実証、フィーダー補助の活用　等

6 評価指標及び目標値の設定

《評価指標①》　外出の際の移動手段に困っている町民の割合

指標	現状値（R5）	目標値（R11）	備考
「現在、外出の際に移動手段に困ることがありますか？」という設問に、「ある」と答えた住民の割合	内子地域 5.4%	内子地域 3.6%以下	高齢化や免許返納が進む中にあっても、住民助け合い輸送や、既存公共交通の利便性向上により減少をめざす。 ※15年後のゼロに向けて、5年間での減少幅を全体の3分の1に設定
	五十崎地域 7.2%	五十崎地域 4.8%以下	
	小田地域 23.9%	小田地域 16.0%以下	

※町民アンケート結果より

《評価指標②》　自家用車で家族等に送迎されている学生及び高齢者の割合

指標	現状値（R5）	目標値（R11）	備考
年齢が18歳以下の回答者のうち、「家族の運転で送迎されている」と答えた人の割合	33.9%	22.6%以下	住民助け合い輸送の実現や、既存公共交通の利便性向上により、家族の送迎負担の軽減をめざす。 ※15年後のゼロに向けて、5年間での減少幅を全体の3分の1に設定 ただし家族間のコミュニケーションも必要であり、完全なゼロをめざすわけではない
年齢が80歳以上の回答者のうち、「家族の運転で送迎されている」と答えた人の割合	28.1%	18.7%以下	

※町民アンケート結果より